

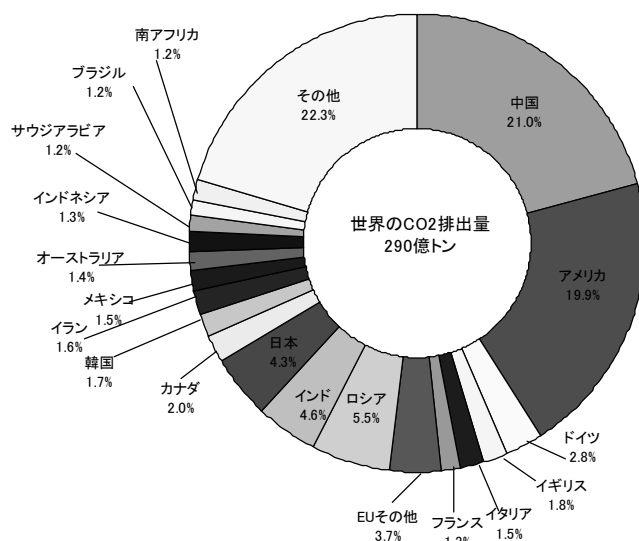
資料 1 世界と日本の温室効果ガス排出状況

1-1. 世界の温室効果ガス排出量

2007年のエネルギー起源（燃料の燃焼に伴うものを指します）二酸化炭素排出量を国別にみると、中国が最も多く、次いでアメリカ、ロシア、インド、日本の順になっています。中国、アメリカの2カ国で全体の約4割を占めており、これらの国では日本の約5倍の量を排出していることになります。

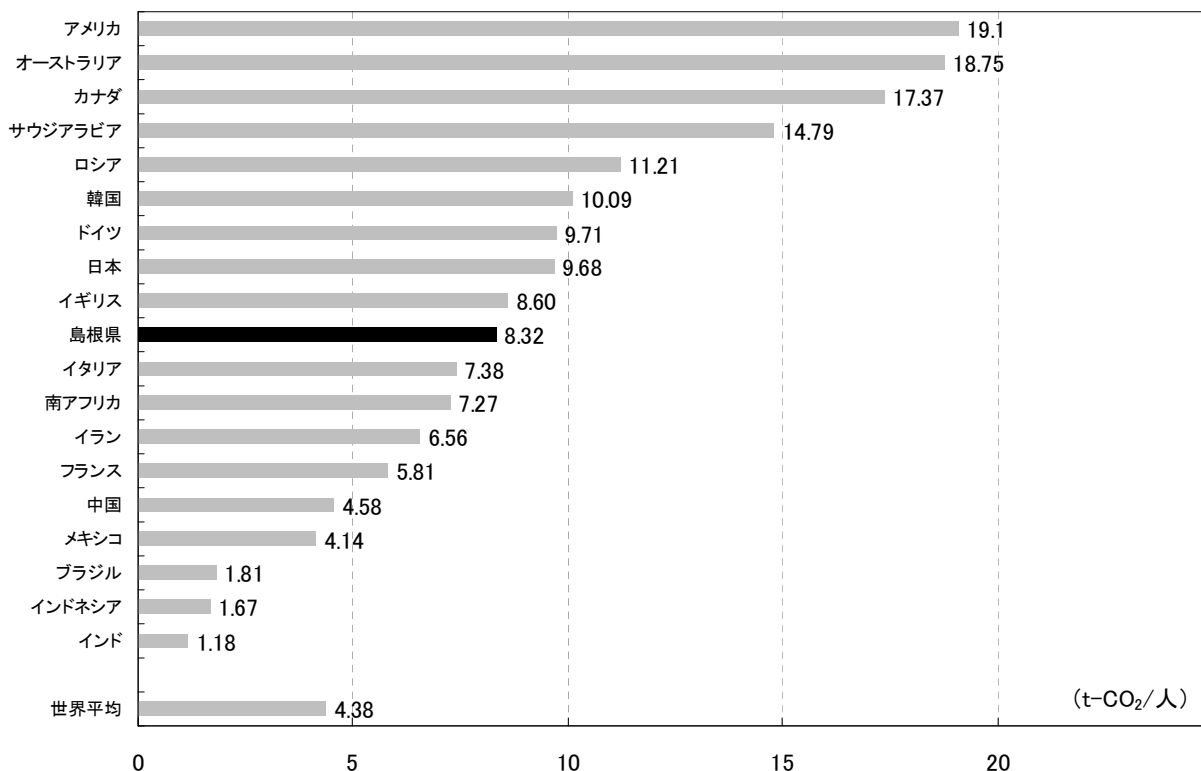
なお、国別1人あたりの排出量をみると、全体的に先進国で多くなっています。

■世界のエネルギー起源二酸化炭素排出量（2007年）



出典：IEA「KEY WORLD ENERGY STATISTICS」2009を元に環境省作成

■国別及び島根県の1人あたりエネルギー起源二酸化炭素排出量（2007年）

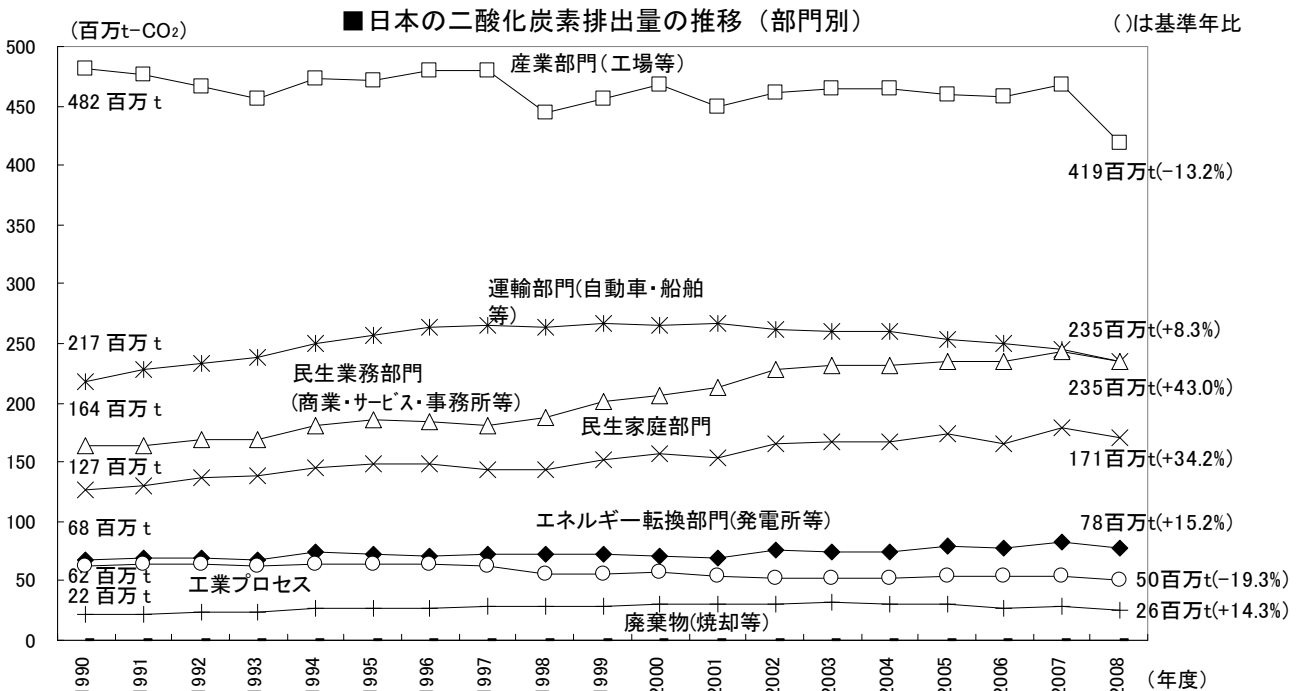
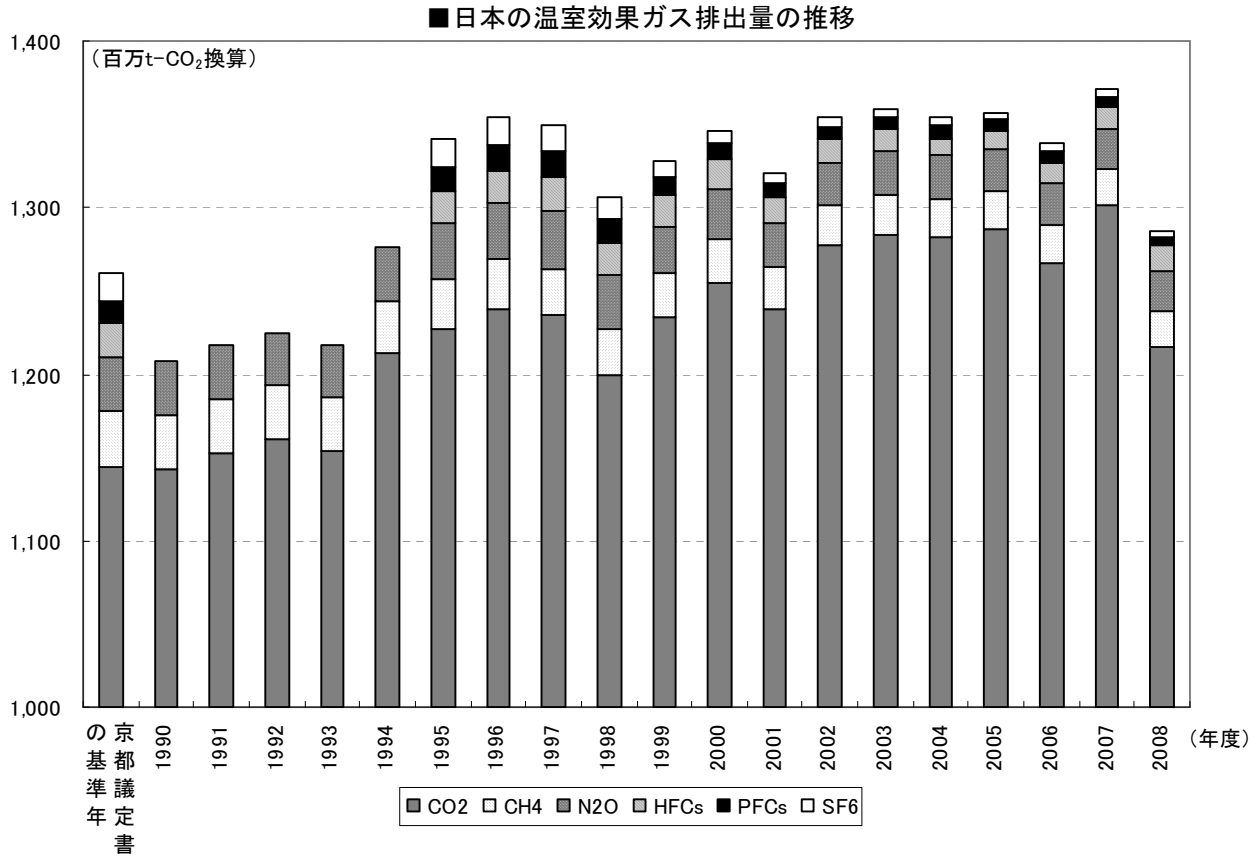


出典：IEA「KEY WORLD ENERGY STATISTICS」2009を元に環境省作成（一部抜粋）

1-2. 日本における温室効果ガス排出量

2008年度の日本の温室効果ガス排出量は12億8,200万t-CO₂であり、京都議定書の基準年※¹と比べると1.6%増加しています。

また、温室効果ガスの9割以上を占める二酸化炭素の排出量をみると、2008年度は12億1,400万t-CO₂であり、基準年と比べると6.1%増加しています。



※1：1990年。ただしハイドロフルオロカーボン類 HFCs、パーフルオロカーボン類 PFCs、六ふっ化硫黄 SF₆ については1995年。

出典：環境省、2008年度（平成20年度）の温室効果ガス排出量（確定値）について